

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第17号】
発行人 中田宣彦
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026) 238-4370



学部を支え、コミュニティのある同窓会に

同窓会会長 中田宣彦

昭和六十二年八月十一日の設立総会以来、第十六回目の総会を迎え、第九期役員にその任を引き継ぐうとしています。同窓会員の皆様におかれましては、鋭意ご活躍のことと拝察致します。

さて、ご承知のように、平成十六年度より国立大学の独立行政法人化（独法化）が実施されるにあたり、教育学部はもとより信州大学全学部をあげて、内外の識者による準備を進めてきています。大学経営・運営そして内部・外部の評価が改めて大切となり、生かされるべく実をあげることが求められています。そんな折、改めて同窓会の事業内容やあり方の見直しの必要性を感じるところです。一層身近な同窓会にしたいと、事業内容を紹介しますと、

①会報の発行（学部や同窓会の近況や会員の声を等々載せ、情報交換の場とする）

②研究助成（学部留学生後援会基金への拠出や新しく実施したい、会員への研究補助。詳細は最終へ

ージを参照し、大いに応募していただきたい）

③学部後援（教育学部・大学院充実にむけての援助をする）

④組織充実（支部組織の活性化を図ったり、会費納入の依頼などを理事の方々にしていただいたり）

⑤長期構想（基本財産運用や総会の在り方の検討をしたり、事務局の整備・電算化を図ったりする）

など、同窓会が一層学部を支え、会員相互のコミュニティセンター化が図ればと考えます。皆様の協力やご意見をお寄せいただければ幸いです。

また、事務局も整備されつつあり、同窓会のホームページも更新され、会員からの住所変更や音信等がけっこう届いております。今後とも大いにご活用いただき、コミュニティ化の一翼になればと。

最後に、赤羽新学部長先生（同窓生であられます）に引き継がれた折、一層教育学部が、日本の教員養成学部の先駆としての発展を期するところです。

同窓生の赤羽貞幸氏が新学部長に就任

昭和四十四年卒業（第十七回生）の赤羽貞幸氏が信州大学教育学部長に就任しました。任期は、平成十五年四月一日から平成十七年四月二日です。赤羽氏の略歴と研究分野を紹介します。

△略歴▽

昭和二十一年・長野県上伊那郡辰野町生まれ、昭和四十四年・信州大学教育学部中学校課程理科卒業、昭和四十六年・金沢大学大学院理学研究科修士課程修了、昭和四十七年・大町市立大町小学校勤務、昭和四十八年・信州大学教育学部附属志賀自然教育研究所勤務、昭和五十五年・理学博士（名古屋大）、昭和六十年・信州大学助教授（教育学部）、平成九年（平成十三年）・附属志賀自然教育研究施設長兼任、平成十一年・信州大学教授（教育学部）、平成十三年・附属松本小学校校長兼任、平成十四年・信州大学評議員（学部長補佐兼任）、平成十五年・信州大学教育学部長

△専門分野と研究テーマ▽

- 一 地質学（第四紀地質学・環境地質学）
- 一 現在の地形（大地）の形成過程を明らかにする地形発達史の研究
- 二 長野盆地や飯山盆地などの内陸盆地の形成史に関する研究
- 三 氷河時代の自然環境の復元に関する研究（野尻湖発掘に関わる共同研究）
- 四 地域地質学研究を基礎にした防災問題や環境問題に関わる研究
- 五 海外研究では、インドネシアにおけるジャワ含人類化石層調査・第四紀環境地質調査・足跡化石調査、シリアにおける内陸盆地の環境変遷調査、古環境調査に参加し研究分担

第十五回 同窓会 通常総会 報告

平成十四年度の通常総会は、定例の八月十一日(日)、長野市中御所の「ホテル信濃路」において四十名の出席者を得て開催された。

渡辺正士幹事の進行のもと、清水美和子副会長の開会宣言、中田宣彦会長の開会挨拶に続いて、議長団に澤田定弘・佐藤功、議事録署名人に遠藤正敏・松村浄の各氏を選任、書記に上條厚・齊藤忠彦の各氏を任命して議事に入り、次の二議案が審議された。

○第一号議案

平成十三年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認に関する件

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十三年度の事業について、別府桂幹事より平成十三年度の歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がなされ、また矢嶋直徳監事より「適正に処理されている」との会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

○第二号議案

平成十四年度事業計画書(案)及び歳入・歳出予算書(案)の承認に関する件

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より、平成十四年度の事業計画、別府桂幹事より平成十四年度の歳入・歳出予算書(案)についての説明があり、原案通り全員一致で承認された。

【平成十四年度事業大綱】

- 一、同窓会報、「第十六号」発行、会員・入会者への発送
- 二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助の検討

- 三、学部後援 教育学部・大学院充実にむけての援助
 - 四、組織充実 地区別活動の促進と未納者名簿の配布・納入の依頼
 - 五、長期構想 事務局電算化計画の推進、総会のあり方・基本財産の運用、中間法人化について検討
- 議事終了後、臨席の北條舒正元信州大学学長(信州大学繊維学部同窓会「千曲会」代表)、藤沢謙一郎学部長より祝辞をいただき、清水美和子副会長の



第15回同窓会通常総会 開会宣言



記念講演会 藤沢謙一郎氏

平成13年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成13年4月1日
至 平成14年3月31日

歳入合計額 5,440,613円也
 歳出合計額 5,069,190円也
 差引残額 371,423円也 14年度へ繰越

歳入の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	162,206	162,206	0	
2 会費	5,800,000	5,120,000	△680,000	未納者34名
3 雑収入	30,000	158,407	128,407	利子・御祝儀
歳入合計	5,992,206	5,440,613	△551,593	

歳出の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	650,000	437,800	△212,200	総会・役員会等
2 事業費	1,000,000	947,133	△52,867	会報・学部後援等
3 事務費	2,015,000	1,752,441	△262,559	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,786,000	1,786,000	0	雇用費等
5 雑費	140,000	101,170	△38,830	学部謝礼・御祝儀等
6 予備費	401,206	44,646	△356,560	学部長との懇話会
歳出合計	5,992,206	5,069,190	△923,016	

閉会宣言で総会を終了した。
総会に引き続き続いて、教育学部長の藤沢謙一郎氏による記念講演会「教育改革と信州大学教育学部の将来構想」が開催された。「臨床の知」を機軸とする教師教育プログラムを一層の充実させ、学部及び大学院における「研究・教育の質」の維持していくという将来構想のもと、臨床経験を重視したカリキュラム編成の工夫などの具体的な取り組みの内容や再編・統合に向けての対応の現状についてご講演いただいた。

ご挨拶

教育学部長

赤羽貞幸



同窓会の皆様には、これまで学部の教育活動に深いご理解をいただき、ご支援ご協力をいただいておりますことにまず御礼申し上げます。

この四月より藤沢謙一郎前学部長の後を受け、学部長に就任することになりました。国立大学の改革を直前にした極めて大学・学部の大事な時期に、はからずも身に余る重責を担うこととなり、毎日身の引き締まる思いで過ごしております。

現在、大学では来年四月の法人化を控えての移行期にあたり、新しい体制への準備にあたっております。法人化になると大学は何か変わるのか、大学にいる私たちに何となく見えないのが現状であります。わかっていることはこれまで対等の仲間であった各国立大学が、それぞれ独立した法人となり競争相手になります。これまでの大学は教育と研究に力を入れていけばよかったのですが、今度は「社会的な貢献」という観点が重要になってきます。大学での教育や研究がどれだけ社会に貢献しているのか、大学の存在が地域にどれだけ貢献しているかが問われ、その評価に応じて大学の運営費が税金から支払われることとなります。常にその大学の社会的、地域的な存在意義が問われることとなります。そのため大学の組織や運営の仕方も大きく変わります。当然、私たち大学人の意識改革も必要となつてきます。

教育学部にとっての最大の社会への貢献は、「質

の高い教員を養成すること」であります。この大きな目標に向かって、教職員ならびに学生が一体となって努力することなしには良い評価は得られませんが、また、これからの教員養成は、大学の中だけで実施することは無理であり、社会のいろいろな人の協力や支援を得てこそ質の高い教員の養成が可能となります。従って今後は、同窓会および先輩方のお力を是非お借りしたいと考えております。

昨年度我が学部は、大学基準協会や大学評価・学位授与機構による第三者評価を積極的に受け止めて実施し、比較的高い評価を得ることができました。高い評価を得た内容は、学部全体で取り組んでいる附属学校との共同研究、「教育参加」「学校教育臨床基礎」「学校教育臨床演習」「教育実習」などの実践的指導力を育成する臨床経験科目のカリキュラムの実施などでありました。

本年四月より、日本臨床心理士資格認定協会による第一種指定校に、本学教育学研究科の臨床心理学コースが指定されました。この第一種指定コースを修了すると臨床心理士の受験資格を得ることができ、臨床心理士をめざす学生にとっては、極めて有利な道となります。ちなみにこの第一種の指定校は、国立大学では全国で十六校のみであります。今後この道をめざす学生や受験生にとっては大きな希望のコースになるに違いありません。

社会への貢献度と関連して今後重要となつてきます就職の状況は、まだまだ厳しい状況にあります。採用状況の変化にも伴い少しずつ好転しております。一昨年、昨年、今年度と教員就職率が急激に上昇しており、全国的に他の大学と比較しても高い就職率を維持しております。これからは質を高めることが就職率を高めることにつながると信じ、学部のおかれた状況には厳しいものがありますが、皆様のお力添えとご支援を頼りに、職務に奨励する覚悟

しております。どうか、より一層のご指示ご指導を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。最後になりましたが、同窓会ならびに皆様のご健勝をご祈念し、挨拶といたします。

学部の新転任・転退職教官の紹介

【平成十五年度新転任教官】

- 南澤信之先生（生活科学教育講座）
- 長野県田川高等学校より新任
- 小野貴史先生（芸術教育講座）
- 鶴見大学短期大学部より新任
- 熊谷 哲先生（生活科学教育講座）
- 東北大学工学部より転任
- 伏木久始先生（教育科学講座）
- 東京学芸大学教育学部附属竹早小学校より転任

【平成十四年度転退職教官】

- 下田好行先生（教育科学講座）
- 平成七年四月着任、国立教育政策研究所へ転出
- 愛敬浩二先生（社会科学教育講座）
- 平成九年四月着任、信州大学経済学部へ転出
- 森山 潤先生（生活科学教育講座）
- 平成十年四月着任、兵庫教育大学へ転出
- 吉本隆行先生（芸術教育講座）
- 昭和四十九年六月着任、定年退職
- 伊藤 武先生（理数科学教育講座）
- 昭和五十年四月着任、定年退職
- 渡邊時夫先生（言語教育講座）
- 昭和五十七年七月着任、定年退職
- 嵩 哲夫先生（生活科学教育講座）
- 昭和六十一年四月着任、定年退職
- 中村 正人先生（教育科学講座）
- 平成七年四月着任、定年退職

学部の近況から

国立大学法人化に向けて

評議員・学部長補佐 千川圭吾

信州大学教育学部同窓会会員の皆様におかれましては、昨今の厳しい経済情勢や激変とも思われる教育環境の変化の中で、それぞれのお立場で重責を担いつつ日々活躍のことと推察申し上げます。

さて、この「会報」をご覧頂ける機会に、現在教育学部が直面している、かつて経験したことのないような大きな環境変化でもある「国立大学法人化」について、現状を報告させて頂きます。

国立大学の法人化は、国立大学を国の行政組織から切り離し、一大学一人とし、各大学運営の自主性を高めることがその内容・狙いとされています。法人化した大学は、自由裁量の下で、個性・特徴のある教育・研究・業務運営を行うための目的・目標を設定し、その計画および実行が可能になります。一方、その結果は外部評価により、目標・計画の達成度が客観的に評価され、国からの運営交付金に反映されることとなります。すなわち大学運営の自由度が大幅に増加する一方厳しい競争原理にもさらされます。このことは将来の大学・学部の存亡にも関わる大きな環境変化とも言えます。

国立大学の法人化については、かなり早い時期から政府の行政改革会議の中で議論されてきましたが、平成十三年八月に文部科学省が打ち出した国立大学の構造改革案（遠山プラン）によって現実的なものになりました。その後も賛否両論の議論は多くなされてきたものの、法人化の流れを覆すような状

況には至らず、その実現に向かって準備は進み、平成十六年四月から全国の国立大学が一齐に「国立大学法人」として出発することが明確になっています。信州大学も早い時期から総合大学の一人として独立することを決定し、その準備を進めています。

最近では「信州大学法人化セミナー」を各学部毎に開催し、法人化の趣旨の徹底、教育・研究の目標設定と結果の評価、人事組織や事務運営など具体的対応についての認識・啓蒙を図っています。

ところで、教育学部では法人化に加えて、教員養成系国立大学・学部の再編・統合の問題も並行して議論されました。当教育学部はこれらの問題に関して真剣に論議し、他大学との情報交換なども行いつつその対応を検討してきました。その結果、総合大学である信州大学の一学部として、地域に根ざした学校教育教員養成と社会教育指導者養成の使命を果たして行くことを合意・決定しています。また平成十四年度は、客観的外部評価の先行例として行われた大学評価・学位授与機構による「研究評価」を経験しましたし、平成十六年度から二十一年度までの六年間の「中期目標・中期計画」の策定も完了し、来べき法人化に向けて実質的な準備も進んでいます。

さて、法人化後は既に経験した「研究評価」に加えて学部の「教育評価」、「地域貢献評価」などに関する客観的な評価内容や結果が、学部にとって大変重要な意味をもつことは明らかです。そして教育学部の教育に関する成果は、卒業・修了された皆様の活躍そのものであるとも言えます。また学部が行う地域貢献の諸活動も、地域に根づいて活躍されている皆様の賛同が得られずには虚しいものになるでしょう。このような観点からも皆様のますますのご活躍・地域社会への貢献を期待・お祈りしますと共に、今後学部から種々の調査等のお願いがあるかと思いますが、ご理解・ご協力をお願いする次第です。

「信大YOU遊世間（ワールド）」の発足

教育学部講座 土井 進

平成十五年三月四日午後一時、旧附属小「竹」の部屋に学生有志十四名が集った。藤沢謙一郎学部長（当時）、古平政義事務長のご出席のもと、「信大YOU遊世間」の発足式を行うためである。

これまで先輩たちが築いた「信大YOU遊サタデー」「信大YOU遊広場（プラザ）」を受け継ぎ、この活動が始まって十年目を迎える平成十五年度からさらに一歩、新たな視点を取り入れて挑戦したいと考えたのである。新たな視点というのは、学生が地域社会の団体と連携して、その教育活動に参画しながら経験幅を拡大していくことである。キャンパス内で学生たちが企画した活動だけでなく、地域社会のニーズにも応えていこうとしたのである。

これに対して、学校、行政、NPO法人、子ども会育成会、障害児の親の団体など十七団体から連携の申し出があり、運営委員会ならびに全体会で検討した結果、今年度は七十名の学生で次の活動に取り組むことになった。

①長野県教育委員会教学指導課生徒指導係と連携した「興譲館」の運営。月曜と木曜の週二日、旧附属小の「松」の部屋の一部を中間教室とし、不登校生とともに学ぶ。②牟礼村ふるさと振興公社と連携して「信大牟礼ふるさと農場」（二十アール）を開設し、子どもたちとともにジャガイモとそばの栽培体験を行う。③JAながの、長野市茂菅地区子ども会育成会と連携して「信大茂菅ふるさと農場」（六アール）を開設し、稲作体験を行う。④長野県長野養護学校の保護者団体と連携して「虹色アトム」を開設し、ふれあい体験を行う。その他にも「キャンパス・プレーパーク」など六つの活動に取り組むことになった。

就職状況

就職委員長 中村浩志

平成十四年度は、学部改組後に入学した学生を初めて卒業生として送りだした年にあたります。下表は、新課程の平成十四年度卒業生・修了生三〇六名の進路状況を示したものです。これに旧課程の卒業生三十六名を加えた計三四二名うち、進学者を除いた学部卒業生の就職率は、ほぼ昨年なみの八十七%でした。そのうち教員への就職率は昨年よりさらに八%増加し、七十一%という結果となりました。十年以上続いた教員就職率の低下は、ようやく底をつき昨年あたりから回復に転じていることがわかります。しかし、教員となった二〇二名のうち、正規採用は八十七名で半数以上の五十七%は臨時採用です。また、卒業生のうち十二%は就職未定者であることを考えると、学生の就職はまだまだ冬の時代です。今回初めて卒業生を送り出した新課程の生涯スポーツ課程と教育カウンセリング課程では、卒業生計四十五名のうち、教員が三十八%、教員以外が十二%、進学者が二十九%という結果となりました。教員養成課程の学生に比べ教員となる学生が約半分で、教員以外が二倍多いのですが、大学院や専門学校への進学者が四倍近く多い点特徴です。

就職委員会では、この四・五月に四年次生を対象とした教員採用ガイダンス、模擬集団面接試験、公務員・民間企業就職ガイダンスを実施しました。今後は、七月に三年次生を対象に教員就職ガイダンス、八月には県の教員採用一次合格者を対象とした面接指導、十月には二年次生を対象に就職ガイダンス等を予定しており、就職率の一層の向上に努めて行きたいと考えております。

同窓会の皆様には、学生の就職活動に関し一層のご指導、ご支援をお願いいたします。

平成14年度卒業生・修了生 進路状況

平成15年3月31日現在

Table with columns for department, course, and career path. Rows include various departments like '教育学部' and '心理学部', and courses like '臨牀学校教育学' and '総合生活科教育'. Columns include '就職先' (Employment destination) with sub-categories like '県内' (In prefecture) and '県外' (Out of prefecture), and '進路' (Career path) with categories like '大学院' (Graduate school), '専攻' (Specialization), etc.

(注) () は臨探で内数、○は外国人留学生で内数

Summary statistics table: 就職率(学部) 87.0% (進学者を除く), 教員就職率(学部) 71.3% (進学者を除く), 教員養成課程卒業生に対する教員就職率 69.2%

退官にあたって

清泉女学院大学人間学部学部長
信州大学名誉教授 渡邊時夫

(1) 私は一九六〇年三月に信州大学教育学部第二類英語科を卒業いたしました(第八回生)。二月頃、南信の高校長から採用の内示がありました。その学校には六十歳を越す英語教員がおいでになり、校長はその方の後任として私を迎えるという人事構想を持っていました。しかし、その方が退職勧告に応じなかつたので結局この人事は成立しませんでした。三月三十日に県教委からいただいた電報により赴任した南佐久郡の中学校分校が、私の教員生活の第一歩となりました。

(2) その後、野澤北高校と上田高校でそれぞれ七年間英語を教えた後、信州大学教育学部の教官として迎えていただくことになりました。英語教員を目指す学生と共に学ぶことが私の夢でしたので、大変幸せなめぐり合わせであったと深く感謝しています。十五年間の現場教育で築いた先輩、同僚、後輩との人間関係が大学での私の仕事を強力に支えてくれました。当然のことながら、私の力になっていただいた中・高の先生方の多くが信州大学の同窓生でした。私ほど同窓生に支えていただいた者は他に無いとすら感じています。

(3) 附属学校の校長を四年間併任させていただいた折に、長野小学校の移転新築・附属長野中学校の創立五十周年記念行事・附属学校跡地公園建設などに係わったり、教育学部創立50周年の諸行事の企画に参加したこと、最後の何年かを信州大学評議員兼学部長補佐として務めさせていただいたことなどが、私としてはささやかなご恩返しだったと考えています。強く心に残ることは、教育学部の優秀な学生諸君と二十年以上にわたって学び合うことができたことです。このことは私の一生の宝と考え、学生諸君に心から感謝したいと思います。

シリーズ！専攻紹介

《芸術教育専攻》

教育学部の各専攻の近況をシリーズでお届けします。今年度は芸術教育専攻、音楽教育分野と美術教育分野の最近の様子や活動内容を紹介いたします。

《音楽教育分野》

北校舎四階に位置する音楽教育講座のフロアは昔も今も変わらないが、ここ数年、専任教官の新旧交代が続いている。平成十三年三月末に音楽教育の久保信男教授、平成十五年三月末に作曲の吉本隆行教授が定年退官された。そして、平成十五年四月十七日、突然の悲報であったが、声楽の大城康宏教授が急逝された。教育学部音楽科の創成期ともいえる時代を築いてこられた先生方のご功績を引き継ぎ、現在(平成十五年度)の専任教官は、音楽教育(中山裕一郎、齊藤忠彦)、器楽(新谷勝造、中島卓郎)、声楽(池田京子)、作曲(小野貴史)の六名で構成している。最近、附属学校の音楽科教官との連携も深め、共同研究を推進している。

毎年開催されている定期演奏会では、附属学校生徒も出演するようになり、学生と生徒との交流を図っている。第三十八回目を迎える今年度の定期演奏会は、平成十五年十二月十三日(土)午後二時から、長野市若里市民文化ホールで開催する。ここ数年で定着してきた、学生が主体となって企画するステージも組み込み、オペレッタ等の総合的な芸術表現にチャレンジする予定である。

音楽教育分野では、これまでの伝統を基盤にし、二十一世紀の新しい音楽教育界をリードすることができるように、その第一歩を踏み出そうとしている。

《美術教育分野》

近年、美術分野では学外へ向けて活発に発表する



木製遊具で遊ぶ子どもたち(附属幼稚園)

学生の姿が数多く見られる。絵画・構成・彫刻の各研究室をはじめ、工芸研究室の「松本あがたの森クラフトフェア」への参加、鑄造ワークショップ等は徐々に地域に認知されてきているように思う。

て、所属研究室に限らず、美術分野全体から参加者が集まっている事が挙げられる。昨年彫刻研究室で行った「Play Sculpture 公開制作プロジェクト」(十日間の日程で附属幼稚園々庭を会場に木製遊具を公開制作するイベント)にも、彫刻研究室はもとより、教科教育研究室の学生などが積極的に参加し、ワークショップの企画や運営、制作活動に大きな役割を果たした。特定の領域にとらわれず柔軟に様々な表現活動に取り組む姿勢が、分野全体に活気を与え各々の作品や活動を魅力的なものとする大きな要素となっている。

本年度は「越後妻有アートトリエンナーレ」へ美術研究室ゼミとして参加が決定し、現在着々と準備を進めている。この展覧会は三年に一度行われる国際展であり、新潟県越後妻有六市町村を会場に、地域の人達と「協働」により作品を作り上げていく地域密着型の展覧会である。学生が主体となり、地域の人達とのコラボレーションの中で、どのような作品が完成するか、今から楽しみである。「本学の作品は七月二十二日～九月七日、新潟県松代町に展示される。」

(美術教育分野 藤田英樹)

会員の声

内地留学を終えて

長野県安曇養護学校(第三十五回生)

関 昌浩

昨年度長期研修生として信州大学教育学部教育カウンセリング課程の野口宗雄教授の下で研修させていただきました。研修の目的は、障害児における動作の発達をどのように学校教育の中で支援していくかというテーマで研修を進めました。近年、子どもたちの障害の状況は多様化し、重度・重複化しています。そのような子どもたちは、その姿勢・動作に歪みや不適切なパターンが見受けられます。その姿勢・動作の改善が、子どもたちの心に働きかけ、行動を変容させていくという動作法を中心に研修させていただきました。

大学を卒業して以来十数年ぶりのキャンパスは、西校舎や実践センターが新たに建てられ整備されたものでした。また、学生の学びの姿は、私の想像以上にひたむきさと勤勉さを感じました。特に、私は教育カウンセリング課程の学生や院生と一緒に研修させていただくことが多かったですが、受講している学生は夜遅くまで熱心に演習を行ったり、毎回議論の末、丁寧なレポートを作成したりする姿に本当に感心しました。それと同時に、彼らの向学心や探究心を学ばせてもらいました。そして、現在、就職や採用試験が厳しい中で、学問に燃え、学んでいる学生の姿を頼もしく思うとともに、私自身、日々大きな刺激を受けることができました。最後に、研修の場を提供していただいた信州大学

教育学部、特に教育カウンセリング課程の野口宗雄先生をはじめとする諸先生方には、この場を借りて深く感謝いたします。

世代を越えての結びつき ―美術科同窓会―

美術科同窓会長・芋井小学校長(第十四回生)

小林 誠

平成十五年一月十一日、浅間温泉みやま荘に於いて、第三十三回信州大学教育学部美術科同窓会総会が開催されました。参加者は、昭和二十七年修了の第二回生から平成六年卒業の第四十二回生までと広い世代に渡っています。親子どころかそれ以上に離れたもの同士が、同じ美術科に学んだという誼を通じて語り合い知り合うことは、社会生活の思わぬところで役立つたりするものです。

この美術科同窓会の発足は、昭和四十四年一月五日の第一回総会に遡ります。当時、学部教官でもあり第一回卒業生でもある関谷俊行先生の呼びかけにより、長野市近辺に勤務していた会員有志による卒業生の消息調査から始まり、苦勞の末の発足総会でした。それ以来、二回の例外を除いては毎年一回の総会開催を主な事業として今日に至っています。

総会では、事業報告や予算決算等の他に、会員の中から各方面で活躍している人をお願いしての講演会が定番となっており、これを楽しみに参加される人も多くいます。その中にはプロの作家として活躍している人もいます。そうした人たちの話からは、芸道を追究する真摯さが伝わってくるともに、好きだけではやっていけないプロとしての生活の厳しさも聞かれます。

総会の他には、退官される学部教官の記念パーティーの企画運営や、三十回からは、総会に合わせて会場で会員の小品展も開いています。

二十一世紀への教育環境断想

長野県退職公務員連盟副会長(第五回生)

田中一夫

昭和初期、私の家は家族が多かった。兄弟は七人いたが幼時二人が亡くなって、祖父母、両親、子ども五人、計九人の生活であった。隣家は三世代十二人。お産も、死ぬのもみな家だった。末妹は生後一週間で息を引きとった。

今は人の誕生も、死も、病院である。昔の人は学問や知識はなかったが、千年、万年と繋がる自然や人生の智慧を身につけていた。

人は物が豊かで便利を当たり前と思い始めた時、物や食べ物のありがたみ、自然や、労働への感謝、足りないものを分かち合う気持ちなどを忘れ始める。

一方、ある生態学者によると、人口が、一平方キロ、七千八百人を超えると花を買う行動が増加し、一万二千人になると植木や苗木を買ったり、風景画を求めると言う。

山も川もわれにほほえみ、木も石も何かささやくここに情緒が育まれた。

子どもは「隠れんぼ」「鬼ごっこ」と遊びの中で異界体験をし、あの世とこの世を行き来していた。

志賀直哉、小津安二郎は、物事の判断を好きか嫌いかできめていた。直感の後退を、ウィルヘルム・ライヒは「人間は動物から機械に退化した」と言っている。

小津の映画は俳優の手柄を撮り、クライスラーの演奏は人格の表現であった、と伝えられている。

実利面と共に、大切な視点の存在を忘れないようにしたいものです。

信州大学教育
学部同窓会

第十六回通常総会(通知)

日時
平成15年8月11日(月)
午前10時より

会場
長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事
第一号議案 平成14年度事業報告及び収入・支出決算報告について
第二号議案 平成15年度事業計画(案)及び収入・支出予算(案)の承認について
第三号議案 次期役員の変更について
6. 来賓祝辞
7. 閉会宣言

記念講演会: 12時より
講師: 信州大学教育学部教授 中村 浩志氏

祝賀懇親会: 13時より

記念講演 (一般公開)

野鳥を通し

日本の自然と文化を考える



信州大学教育学部教授
中村 浩志 氏

カッコウは、自分では子育てをせず、他の鳥の巣に卵を産み込んで育てさせる托卵という習性を持つ鳥である。この鳥のずる賢さとその進化の不思議さに魅せられて以来、すでに二〇年以上にわたり「托卵する鳥とされる鳥の攻防戦と進化」をテーマに研究を続けられている。その成果が最近「サイエンス」誌と「ネイチャー」誌と「果ては欧米の一流誌に掲載され、昨年は山階芳麿賞を受賞された。」講演では、カッコウの研究成果についてお話いただきと共に、野鳥の研究を通して最近ようやく見えてきたという日本の自然と文化について講演いただく。

- プロフィール**
- 一九四七年 長野県坂城町生まれ
 - 一九六九年 信州大学教育学部卒業
 - 一九七四年 京都大学大学院理学研究科修士課程修了
 - 一九七七年 同博士課程単位修得

事務局便り

一九八〇年 信州大学教育学部助手
一九八六年 同助教
一九九二年 同教授、現在に至る

ケンブリッジ大学長期在外研究員(一九九四―九五)、日本鳥学会編集委員長(一九九七―二〇〇〇)、ライチョウ会議会長(二〇〇〇年)、日本鳥学会副会長(二〇〇二年)、第十一回「山階芳麿賞」受賞(二〇〇二年六月)。主な著書「戸隠の自然」・「軽井沢の自然」・「千曲川の自然」(信濃毎日新聞社)、「カケスの森」(フレーベル館) 他

○卒業生名簿の訂正のお願い
平成十一年十月発行の卒業生名簿に誤りがありました。左記のように訂正のお願い致します。関係者には大変ご迷惑をおかけしました。

- ・四五五頁下から十四行目 第十四回生 竹内(小林)勝代さんを左記のように訂正 山本(小林)勝代 千三八九・〇八〇四
- ・四六一頁下から十行目 【英語科】 山本(中沢)勝代さんを左記のように訂正 竹内(中沢)勝代 千二八五・〇〇二一

佐久市長土呂一七四七・一 Tel 〇三六・六・六四二

○会費の二重払いについて
同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会の会費は終身会費です。会報が夏の総会前(七月)にお手元に届いた方は納入済みです。二重払いされた会費は返しますが、振り込み手数料等が引かれますので全額返金出来ません。

○名簿発行案内についての注意
某出版社より「信州大学教育学部同窓名鑑」発行に付いてのハガキが卒業生に来ておりますが、教育学部同窓会とは何の関係もありません。

○信州大学教育学部同窓会・研究補助について
信州大学教育学部同窓会員を対象とした研究補助制度をスタートさせます。二十一世紀の教育を指向し、日常の教育研究や教育実践を支援するもので、一律に一万円の補助をします。応募規程等の詳細は同窓会ホームページをご覧ください。



http://taaedu.shinshu-u.ac.jp

同窓会ホームページ

事務局長(杵淵) ykine03@gipnc.shinshu-u.ac.jp

事務局員(伴) banmari@gipnc.shinshu-u.ac.jp

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加ください。事務局までお願いたします。